

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今より令和4年9月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

会見の進行につきましては、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をさせていただきます。事業発表に係る質疑応答の後にフリーの質疑応答とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、ご質問の際は、挙手の上、所属名をお願いいたします。発言の際はマイクのスイッチをお願いいたします。

終了は14時30分を予定しておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願い致します。

【市長】 では、皆さん、よろしくお願いいたします。

今日は定例記者会見の日ですけれども、9月の議会の告示日でもあります。議会は9月5日から10月6日まで開催されます。今議会では補正予算のほかに決算の審査もありますので、しっかりと説明して対応してまいりたいというふうに考えております。

また、最近の出来事としまして、GX実行会議で岸田首相から原子力についての言及がございました。その中で次世代革新炉の開発、建設などを検討する方針ということが出てきましたので、年末をめどにということがございますので、これについてしっかりと議論していただいて、新增設、リプレースも含めて議論していただきたいというふうに考えております。

また、甲子園につきましては、ベスト16ということで頑張ってくださいました。勇気をもらったと思っておりますので、しっかりと健闘をたたえたいと思います。

それから、3年ぶりにぎぶとん会を10回行わせていただきまして、先週の金曜日に終わりました。市民の皆さんの意見等を聞きましたので、しっかりと反映させていきたいと思っております。

また、あしたなんですけれども、朝にTSURUGA POLT SQUARE ottaの完成式典がございます。ちえなみきも併せて完成式典をやります。9月1日からスタートになり、市民の皆さんにとって憩いの場、また観光客の皆さんにとって目的となる場所となりますように、しっかりと応援してブラッシュアップしていきたいと思っております。

それから、敦賀ものづくり産業懇話会と嶺南6市町が経済産業省の事務次官であります多田明弘氏の特別講演会を開催いたしますので、これにつきましても、どんなことをしゃべられるのかなど、これからの日本の在り方と経済の在り方、また原子力の在り方等、ご講演を楽しみにしているところです。

また、最後になりますけれども、新型コロナウイルス関連につきまして、感染拡大警報が9月末まで延長されました。今日から小中学校につきましては学校が再開しているわけなんですけれども、しっかりとご家庭で対応していただきたいと思っておりますし、なかなか家族内感染が抑えられない状況ですので、それについてしっかりと対応というのは難しいんですが、皆さんとともに頑張っって抑えられるように体調管理等を徹底していただくようお願いしたいと思っております。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願い致します。

【市長】 事業発表につきましては2つございます。

1つ目は、令和4年度9月補正予算でございます。

今回の補正予算につきましては、原油価格・物価高騰等の対策や国、県補助金の内示決定に伴うものなど、早急に予算措置が必要となったものを計上いたしました。

まず、原油価格・物価高騰等の対策につきましては、現在発行しています電子クーポン「つるが割」を10月以降も継続して発行することにより、消費者及び中小企業者等を支援する経費を計上いたしました。また、保育園や学校等の給食材料費高騰分を支援する経費を計上いたしました。

そのほか、補正予算の主な事業として、総務費では、市内に所在する2つの大学の研究・地域連携事業を支援し、研究等を通じた人材育成や地域への貢献を促進する補助金を計上いたしました。

民生費では、子育てに係る経済的負担を軽減し、安心して出産、育児ができる環境を確立するため、国の自治体マイナポイント事業等を活用した支援を実施する経費を計上いたしました。また、子育て環境充実の一環として、こどもの国をリニューアルするため、施設改修に向けた計画を策定する経費を計上いたしました。

商工費では、アフターコロナや北陸新幹線敦賀開業に向け、観光客等の受け皿となる店舗の魅力向上を図る事業者を支援するため、市内全域を対象に、店舗の改装や設備導入、リノベーション等に係る費用の一部を補助する経費を計上いたしました。また、本年5月に操業を開始した株式会社日本ピーエス新工場への企業立地補助金を計上いたしました。

教育費では、西福寺が実施する文化財建造物の保存修理事業を支援する経費を計上いたしました。

以上が今回の補正予算の概要でございます。

次に、2つ目の第4回地域共生社会推進全国サミットinつるがの開催についてでございます。

本年11月17日及び18日の2日間、本市におきまして第4回地域共生社会推進全国サミットinつるがを開催いたします。メインテーマを「ぬくもりをつなぎ、支え合い、共に生きる～人道の港 敦賀 から全国へ～」とし、地域での支え合いや多様な社会参加の在り方等について全国の皆様と一緒に考えるサミットにしたいと考えています。

9月1日からサミットの参加申込受付を開始します。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。資料がついておりますので、またご覧ください。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目につきまして質問をお受けしたいと思っております。最初に、幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 今回の補正予算案、8億990万8000円の額を計上されましたけれども、中を見ましたところ、マイナポイントであったり、あと給食の補助であったりと、今回、子育て関係に力を入れている印象を受けました。

それで、今回、子育てについて注力した理由であったりとか目的などありましたら、教えてください。

【市長】 子育てにたくさんお金を使っています。コロナによりどうしても出生数が下がっているということが全国的な動きとしてあると思います。敦賀でも令和元年から出生数が2割ぐらい減ってきています。ただ、出産応援一時金の10万円というのが第1子ありましたけれども、そのせいかどうかは分かりませんが、この3年間で数は何とか減らずに持ちこたえているということを思っています。その中で何とか出生数を増やしていけないかなという取り組みを今回させていただきました。

【記者】 その中でマイナポイント、こちらが1億3009万円計上されていますけれども、こちらは市独自として今回考えられたものなんでしょうか。

【市長】 マイナポイントの付与ということにつきましては、子育て世帯について応援していくことで、子どもを産もうかという人たちが増えてくるといいなということを思っています。その中で、それだけ

ではなくて、マイナポイントということで国が奨励していますマイナンバーカードを取得する、要はお子さんが生まれたときにマイナンバーカードを取得して、それで銀行口座もつくれたりしますので、その事業を利用させていただいて子育て応援につなげていきたいと考えた事業です。

【副市長】 今年度、マイナポイントの付与に対する原資は市が持たなくてははいけませんけれども、事務費等について国のほうで持っていただけるという制度がございます。また、原資についても今年度はコロナの臨時交付金を使えるということもございます。そういったことで9月にこういう事業を考えて上げさせていただいたと。

マイナポイントに対する説明会ですけれども、今月上旬にありましたので、それ以前から子育て支援に何かできないかということは検討しておったんですけれども、そういった制度も活用できると。それで、一部ではありますけれどもマイナポイントの普及にもつながると。さらに、直接的ではございませんけれども、間接的にふく割は継続しますけれども、それ以外にもこれまで疲弊した市内経済の活性化にも、間接的ではありますけれどもつながるんじゃないかということで事業化、予算計上させていただきました。

以上です。

【記者】 ありがとうございます。

あと給食に関連してなんですけれども、予算のほうで給食に関するあり方の検討委員会を設置するという、こちらも予算で計上されていますけれども、こちらの、仮に予算が通って設置されるとなった場合、どんなことを協議されるのでしょうか。

【市長】 給食のあり方ですので、自校とセンターというのがありますが、前にも少し申しましたように、いろんな事業を前倒しできるんじゃないかなと、予算措置ができるんじゃないかなという中で、給食センターの見直しについて考えていきたいと思っています。その中でどういうあり方がいいのかと検討を進めていく中のあり方検討委員会の設置でございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかに、幹事社さん、よろしいでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔なし〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと移りたいと思います。これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 先程市長の挨拶で出ました駅西地区に関してなんですけれども、その点でまた改めて2点お伺いしようと思います。

まず1点目、市長も恐らく完成して中を見学されたと思うんですけれども、その見学した市長自身の所感というのと、あと、木曜日いよいよオープンが数日後に控えていますけれども、改めてそちらの意気込みについてお願いいたします。

【市長】 先に見させていただきまして、ちょっと作業の邪魔をってしまったんですけれども、一つは、ちえなみきについてはやっぱりとんがったものがたくさんあっていいなということと、もう一つは、こころんとのつながり、また2階にあります子どもさんを遊ばす場所とかというのがありますので、子どもさんを連れてコーヒーを飲みながら本を探しても探さなくても憩いの場としてなるんじゃないかなということを思いました。

それから、オルパークでたくさんのお子どもたちが勉強していてなかなか場所取りができない人もいる

と思うんですけれども、その中でオルパークの機能というか、勉強したい子どもさんがいたときにあの場所を使って勉強するスペースもできるんだなということを改めて感じましたのでよかったなと思います。

世界樹という木、ちえなみきという木を使っているいろんなことを学んでいくというきっかけとして、きちんと本が並んでいなかったりテーマごとに分かれていたり、この中で本に興味を持ってくれるかなど、そういうふうにいざなうような機能というのも上手につくってあるなというのも改めて感じました。

あと、全体的なPOLT SQUARE ottaとしましては、一番奥のほうにスタバができました。たくさんの方がいまして、すごい集客力だなと改めて思ったんですが、あそこに行って帰ってくる動線の中で、中庭というんですかね、広場のところが非常にロケーションとかがよくて、スタバから見た駅というのもすばらしいです。スタバに行って帰ってくるという、駅のほうから来て帰っていくという中で回遊性が高まって、いろんな人たちが、本を読みながら緑地に出てきたり、スタバで物を買って緑地に出てきたり、もしくはその辺を歩きながらということで、にぎわいの創出につながっていくんじゃないかと改めて期待を大きくしました。

ホテルの中も見せていただいたんですけれども、ホテルもワンランク上のということで非常にいいお部屋も造っていただきましたので、そういう意味では、今まで企業さんから伺っていたのは、要は、敦賀に大事な人を連れてこようとするとどうしても京都に泊まるしかないんですということを聞いていたんですけれども、そういう意味では敦賀に泊まっていただけ、足がかりができたんじゃないかなと思っています。

すみません。雑駁ですけれども、そんなことを思いました。

【記者】 ありがとうございます。それで9月1日からオープンされますけれども、あちら、そのottaを拠点にどのように駅西地区が盛り上がってほしいと思っていますでしょうか。

【市長】 そうですね。1年半前のオープンになりますので、これからオープンまでの時間がありますから、その中でいろんな微調整とか、要はされるんだと思いますけれども、それ以前に今のままだでも十分に憩いの場として成り立つと思っていますので、ottaに1回行こかというような、くくりつけの中で人を呼んでくれるような仕掛けにしていきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

それでは、各社にお伺いいたします。ご質問ございましたら挙手のほうお願いいたします。

【記者】 冒頭のご挨拶の中でもございましたけれども、先般行われましたGX会議で次世代革新炉検討の方針が出たと、新增設、リプレースも含めて議論するという事なんですけれども、市長先ほども新增設、リプレースについてしっかり議論をしていただきたいというふうにおっしゃっていましたが、敦賀市での新增設、リプレースについては今はどのようにお考えか、お伺いしてもよろしいでしょうか。

【市長】 敦賀市にとりましては、3・4号機というのがテーマとしてありますので、そこが新增設もしくはリプレースになる。そこで進めたいと考えています。

ただ、それで直に進むのかどうかというのは分かりませんので、ここから年末に向けて議論をしていくということでもありますから、その中で次世代革新炉の中に軽水炉もあると聞いておりますので、議論していただけたらなと思って期待しています。

【記者】 ありがとうございます。

すみません。続けてなんですけれども、一方で稼働の方針が出ている中でなんですけど、今年も年明けから高浜3・4号機では蒸気発生器のトラブルが相次いでいたりだとか、今月運転を再開する予定だっ

た美浜原発3号機でも水漏れだったりだとか、機器の異常というものが幾つか起きています。そういった状況に関しては率直に立地の長としてはどういうふうを受け止められているか、ご意見をお伺いしたいと思います。

【市長】 そうですね。今言いましたように、非常に期待する時期であるんですけども、一方でそうやって、細かいトラブルが出ているというふうに感じています。ですから、その原因究明と水平展開——対策——をきっちりしてほしいと思っています。この間の美浜で起きたことについても、それが大したことなかったんだよではなくて、それをもう1回しっかりと事業者さんは自分らの工程の中に受け止めてもう1回見直しをして展開をする。そのくらいしっかりとやっていかないとやっぱり国民の皆さんの理解ということにつながっていかなくなりますので、私達の信頼にもつながっていかなくなります。しっかりと対応だけではなく対策をしていただきたいと考えています。

また、そういう意味では、ここが終わればいいんだろうみたいなところがあると思うんですけども、それに付随したところがありますよね。このボルトが問題だったといたら、そのボルトの関係だけを調べるだけじゃなくてパッキンを調べましょうとか、そういうところも含めてやっていかないと、せっかくいいところまで来ていますから、きっちり気を引き締めてやっていただきたいと思います。

【記者】 今の原発に関してなんですけれども、政府としては今まで新增設については想定していないという立場を取っていたところが、急に政策を転換したようにも思えるんですけども、率直にこの方針についてはどのように受け止めましたか。

【市長】 そうですね。私たちの理解は、第6次のエネ基にしましても第5次につきましても2つのことが書いてあると、いつも、やると言っている部分とやらないと言う部分、将来的に出していきますという部分が書いてあります。、一部ではやっていくんだろうないことは期待して思っていましたので、そんな大きな方針転換だということは考えていなくて、やっと言ってくれたかみたいな、そういう気持ちです。

新增設ということにつきましても、革新的な炉ということですので今までと全然安全性が違った、また効率性も違ったもの。ですから、敦賀の3・4号機を私ら期待するわけですけども、3・4号機という名前が妥当かどうか、これが今後分からないんですよ。別の違う革新炉を敦賀で造るという形になれば、なるのかどうかは分かりませんが、そういう方針だと思っていますので、とどまっていたものがやっとして押し出されてきたという理解を持っています。

【記者】 もう1点だけ。こういった国の方針がより明らかになったことで、敦賀の行政、経済にはどういった影響があると思われますか。

【市長】 そうですね。皆さんの期待値は大きくなると思います。ですが、今言いましたように、改めてということになりますと、用地はできていますけれども、そこにどういうものを造るかという設計協議から入っていくと思うんですね。ですから、今すぐに経済的に敦賀市が潤うかという、それについてはまだ先のことだと思います。

【記者】 将来が少し明確になるといったお考えはございますか。

【市長】 将来的には明るい気持ちが高まりますけれども、直ちに何か事業をしていこうというところにはないと思います。

【記者】 ちょっと重複するような話になるかもしれませんが、2点ありまして、一つは、先立って岸田総理は国が前面に立つという発言もされたということです。この言葉というか、こういったことはこれまでも求めてきていたと思いますので、まずこういった立場を明確にされたということについてのお考えをお聞かせください。

【市長】　そうですね。率直に言うと非常にありがたいと思いますけれども、私どもは、国民理解を国が前面に立ってやってほしいということをずっと国に申し上げてきました。今回、岸田総理がおっしゃったのは、17基を動かす上で国が前面に立って推し進めていくということまで言っていただきましたので、前向きな言葉だと思っております。やはりゼロカーボンに向けて、CO₂フリーに向けて真剣に取り組まれるんだろうと思っています。

この背景というのはやはり、さっきも少し言いましたけれども、物価高騰ですよね。石油等の高騰、資材の高騰、またロシアのウクライナ侵攻、そういうことで世論的にも少し変わってきました。原則必要だというふうに変わってきました。そういうところの国民理解も進んだという中での発言だと思っています。

【記者】　もう1点なんですけれども、さっきも話にありましたけれども、もう既に造成もできている3・4号機の用地があって、その中でこの長きにわたってストップしていたものが動き出すのではないかとということになるとそのことへの期待感と、あと、新しいものを造るまでの時間があるので、こっちは全原協会長として聞きたいんですけれども、60年超運転についてはどういうふうを受け止められますか。

【市長】　3・4号機につきましては、動くまでには時間がかかると思います。設計も見直さなくてはいけないでしょうし、当時のものよりすごく技術的には進んでいるでしょうから、いろんな改良点も出てくるんだと思っています。

60年超につきましては、全原協でも要望を出していますけれども、止まっている間の炉心というのは劣化が進まないんじゃないかと、その間はカウントしなくてもいいんじゃないですかという議論をしています。ですから、そこに向けて協議、研究が進んでいくんだと思っています。経産大臣のところに行きましたら、昔の車でもエンジン以外は全部フル装備に変えて運転していくのが再稼働なんだと話が出ていました。まさにそういう形の延長になっていくんでしょう。それで本当にエンジンがもつのかどうか議論しながら進めていただく形になろうかと思っています。

【記者】　私も原発の件と、あと新幹線の関連でお伺いします。

原発新增設に関して、廃棄物という根本的な問題が全く解決されていないまま議論が進んでいる。新增設ということになると、少なくとも向こう数十年はやっぱり原発に頼るんだという政策になると思うんですが、この点について、最終的な処分方法、処分場所が決まっていなかったことや、あるいは、そもそも将来世代に対してツケを押しつけるという倫理的な問題もある。解決する責任は一義的にはもちろん国にありますし、電気を使う全国民の問題だとは思いますが。立地自治体あるいは全原協の会長という立場あると思いますが、その点についてどういうふうに整理してどんな議論を期待するかという点をお聞かせください。

【市長】　バックエンドの話になると思いますけれども、確かに使用済み燃料をどうするんだということや、廃炉もありますから、廃炉後その廃棄物をどうするという議論もあります。それにつきましても国がしっかりと責任を持って議論を加速していただきたいと思っています。

新しく稼働するかどうかは別にしても、既に満杯状態もありますので、いずれにしろバックエンドはしっかりと取り組んでいただきたいと思っています。

【記者】　少なくとも、最終的に処分場所が決まらないという以上は現地から出ていく保障がないという状況ではあるんですが、その点についての懸念というのはどうでしょう。

【市長】　それについては、敦賀市はないんですけれども、ほかの自治体はあると思います。そういう中で中間貯蔵の議論がありますので、しっかりと国が前面に立ってやってほしいと思います。

【記者】 分かりました。

それから、今後の敦賀市としての方針ですけれども、3・4号に期待するというお話がありましたけれども、一方で、例えばふるさと納税での税源確保であったりとか太陽光の買い取りであったりとか、必ずしも原子力に頼りきりにならないような方向での施策の打ち出しというのも敦賀市が最近あったと思うんです。この点について、原子力という方向性、今後またそちらに戻るのかというちょっと懸念もあったんですが、その点について今後の施策の考え方、方向性についてどうお考えですか。

【市長】 ありがとうございます。

確かに水素をはじめ、いろんなことをやっているんですけども、それについて私もかねがね申し上げていますのは、原子力という産業がありその副軸化をしたい。一本足だと不安定になるので、幾つもの産業の軸をつくっていききたいということを申し上げています。今までどおり、原子力が動けばそこは地場産業として応援したいと思えますし、それだけではなくていろんな産業も興していきたいと思っています。

【記者】 分かりました。

あと北陸新幹線絡みなんですけれども、今回、タイミングが非常に難しく、コロナの後で将来の予測というのが本当に立ちづらい中で、敦賀市の場合、東京と距離が近くなるわけではないなど、いろいろ予測しづらい状況が敦賀市の場合はあると思います。その中で整備を進めているまちづくり、都市開発、この整備を進めていく上での基本的な考え方を教えてください。

【市長】 確かに到達時間が短くなるわけではないんですが、一方で、旅行に行くとき乗り換えを嫌がる人はたくさんいらっしゃいます。特に都会の方たちは地方に行くのに乗り換えを嫌がると思います。

もう一つは、その新幹線の駅を見に来る人がたくさんいることも聞いています。特に敦賀駅は最大の駅になっていますので、そうしますと中京、阪神から敦賀駅を1回見に行こうかということがあると思っています。そのときは電車で見えるのか車で見えるのかそれぞれなんです。その対応としてどうするのかということ、まず行ったときに駅に行くんですよ、車で来てても。ですから、駅にできるだけ大きな駐車場を造りましょうということで立体駐車場を造りました。次は目的地に、目的物となるものをつくりましょうということでこのottaができました。そういう意味では集客力というか、来てみよう、来てよかったねというところにつながるんじゃないかなと。

次にしなくてはいけないのが、この間から言っていますように、敦賀だけでなく広域観光をしなくてはいけないと思っています。敦賀まで来ましたと、それでよかったねじゃなくて、見足りなかったらもう少し大きい範囲で見たかったとか、季節を変えて、目的を変えてというところまでつながりたいと思っていますので、そういう仕掛けをしていきたいと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 すみません、また話題が替わっています。最後に一つだけ、新幹線の中核施設の件で教えてください。ちえなみきのことです。

私もこの間内覧させていただいて非常に特徴的である書店だなと思ったんですけども、市長としてあえてその新幹線の中核施設に公設書店を造ろうと思った狙いと思いをお聞かせ願えますか。

【市長】 そうですね。何を造ろうかというのはいろんな議論があったんですけども、その中で、商業施設につきましては、別で造りますのでそこは要らないだろうと。私どもが応援する上で何がいいのかなという、先程言いましたように、オルパークが結構手狭になっていて、一生懸命勉強をしている。そういうところは何か応援できないだろうかというのが出発点だったんです。その中で、公設民営の書店を造ってコーヒー飲めてというような場所ができると市民の皆さんも喜ぶし、観光客の方たちも、普

通の書店でなくてとんがった書店であれば、本とか見に来ることが期待できるんじゃないかと考えながらさせていただきました。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 それでは、これをもちまして市長定例記者会見を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。

午後2時5分 終了